



ICT教育環境推進のご紹介

今年度より中学1・2年生と高校1・2年生を対象に、iPadを利用したICT教育がスタートしました。推進担当の樋山教頭先生より「iPadは学習のツールとして、ぜひ活用してほしい」とのお話を伺いました。

●推進担当の樋山教頭先生より

iPadでは「Classi」や「ロイロノート」といったアプリを利用し、授業などで活用しています。利用においては生徒に配布されている**ルールブック**をもとに、学校や家庭で利用時間などルールを決めて正しく活用して欲しいと考えています。

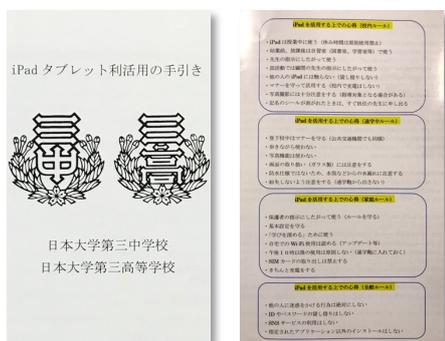
学校側では、生徒がどんなサイトにアクセスしているかを全て把握・管理しています。

保護者の方のご意見として、「iPad利用によって黒板の板書が少なくなったり、先生とのコミュニケーションが乏しくなるのでは??」とのご心配もあるかもしれませんが、**iPad利用による授業の効率化**によって時間の余裕が生まれ、先生と生徒との対話の時間を多く取れるようになりました。これにより、知識を与えるだけでなく、生徒一人一人が自分で考える時間が増えたと感じています。



中学生は**赤**のカバー
高校生は**紺**のカバー

ルールブック



●ICT推進室

ICT推進室には、常時SE(システムエンジニア)の方が常駐されていて、iPadの不具合の対応や使い方のご指導をされています。

ICT推進室からのお願いとして「**iPadは精密機器である**」ことをもっと意識し、丁寧に取り扱いしてくださいとのことです。



学年ごとの活用の様子

中1

「Classi」は主に学習記録や担任の先生との業務連絡にて使用。また「ロイロノート」は授業中の資料配信や課題を調べたり、宿題の提出などで活用しています。

国語のノートを写真に撮って提出したり、地理では「Classi」上で小テストを実施。英語は教科書を音読した動画を撮影し先生に送信、家庭科はお小遣いノートをつけて提出、などしています。また校外学習後には、iPadに入っているソフトを用いてレポートを新聞形式でまとめ提出。その後クラス全員の新聞もiPad上で閲覧し、評価コメントを書くなどの課題もこなしています。

中2

「ロイロノート」アプリを用いて授業で資料を見たり、写真を撮って提出物を送信したり、担当の先生に直接質問するなどして日常的に活用しています。

また、長期休暇中の家庭学習定着の一環として、今回の冬休みには1月の模試に向けた“ぼくらの44日間チャレンジ”を実施しました。模試対策の具体的な指導として、課題に取り組んだりWEBテストを実施。「自分はこの分野のここがわかっていない」を認識し弱点を見極めることで、効率的な学習と成績の大幅アップを目指すことを目的としています。